

☆放課後子ども教室☆

7月に入り、気温も急上昇。あっという間に1学期も終わり、子どもたちにとっては待ちに待った夏休みです。北海道の夏は短し、遊べよ子どもたち！ということで、熱中症には気をつけつつ、ケガなく、事故なく過ごしてほしいものです。

6月後半のプログラムでは、小枝や松ぼっくりなどの木の实を使った写真立てを作りました。モノづくりは上手に作ることも、楽しく好きなように作ることを目標にしています。1年生にとっては初めてのモノづくりプログラムでしたが、上手いかわからないところはスタッフの手を借りながらも思い思いに作業をし、素敵な作品がたくさん出来上がりました。



放課後ミニ実験室と題したプログラムでは、割れにくいシャボン玉作りに挑戦。市販のシャボン液はきれいなシャボン玉がたくさんできますが、大きくふくらまそうとするも、すぐに割れてしまい、なかなか大きくするのが難しいのです。そこで今回は、自分たちでシャボン液を作り、大きくしても割れないシャボン玉を作ってみよう！というミニ実験を行いました。ぬるま湯に砂糖やガムシロップを溶かし、そこに界面活性剤という成分が入った洗濯用洗剤と食器洗い用洗剤を混ぜて準備完了。実際に外に出てシャボン玉を作ってみました。真剣な面持ちでゆっくり息を吹き込むと、手のひらサイズのシャボン玉がたくさんできました。中には自分の顔よりも大きくふくらませることができた子も。高学年の子が「久しぶりにシャボン玉で遊んだけど、楽しい！」と手まで泡だらけにしながら、夢中になって遊んでいる姿が印象的でした。



学校の運動会は終わりましたが、放課後教室でもスペシャル運動会を開催しました。リレーや特別ルールのカタキ、付箋探し、借り人競争などの競技を楽しみました。リレーは男子も女子も学年を問わず白熱しますね。応援の声も大きく、みんな一生懸命走って良い汗をかいていました。



老朽化に伴い、JR 浜厚真駅の外装や内装を塗り替えるため、新デザインのアイデアを子どもたちから募集したいという依頼を受け、各高学年の活動日に子どもたちとアイデアを考えるプログラムを行いました。厚真町役場まちづくり推進課の担当職員の方から活動の趣旨について説明を受け、厚真町と言えど聞かれて、コレ！と思いつくものをたくさん挙げていきました。ハスカップ、あつまるくん、あづま成吉思汗、こぶしの木、お米。厚真町をイメージするこれらのモノゴトが、子どもたちにとって原風景・原体験として残るような活動を取り入れていきたいと感じました。ここで出してもらったアイデアをもとに、札幌市立大学の学生さんがデザイン画を作成し、秋には町民参加型のイベントとして外壁の塗り替えを予定しているそうです。どんなデザインになるか、楽しみです。

